

づいそう

微笑みの国タイの変貌に驚く

渡 邊 和 夫



タイ南部マレー半島中部スラタニ市に、「日・タイ道路建設訓練センター」が設立されたのは1971年である。その前年、私は当センター設立のための現地調査団に参加したのが、私のタイ訪問の最初であった。

スラタニ市は、当時は交通の便が悪く陸の孤島に近かった。この地に1971年7月より第一次隊10家族、乳のみ子から中学生まで総勢38名の日本人が生活することとなった。最初の仕事は、センターの施設が完成し宿舍が完成するまでの住む家を探すことだった。人口3万そこそこの町に外国人が住める空家を10軒探すことは並大抵のことではなかった。仕事は日本から持ち込んだ機械を使って、スラタニから東方に約80kmの道路を作りながら道路技術と機械技術を指導することになった。任期は平均2年で6年間で三世代約30家族がプロジェクトに参加した。

私の2回目のタイ長期滞在は、1980年7月から1年間タイ道路局カンチャナブリ機械センターへの技術協力であった。このプロジェクトは円借款により日本から建設機械を供与し、ビルマ国境に伸びる国道の整備をサポートする役目を負っていた。専門家は3名で私は任期1年、他の2人は2年であった。

カンチャナブリ市は、バンコックの西方約120kmに位置し、映画「戦場に架ける橋」の主題歌「クワイ河マーチ」で世界的にもよく知られている町である。

今年の7月下旬に一族7名（小生、妻、娘、孫2人、息子夫婦）でタイ旅行を実施した。目的のひとつは、孫たちにタイの様子を見せることになった。スラタニ空港には、センターから数人と家事手伝いをしてくれた女中の家族たちの出迎えを受けた。早速センターを訪問すると、ドリアン、マンゴスチンなどなどたくさんの果物の歓迎を受け、構内を視察した。33年前に松本専門家が造った日本庭園はよく整備され当時の面影を残していた。私たちの宿舍は大分古くなっていたが、元の我が家の前で女中を含め当時住んでいた5名で記念写真を撮って懐かしんだ。

夜はスラタニ名物の河口のレストランで、センターのメンバーが多数参加し歓迎会を盛大にしてくれた。日本ではなかなか口にできない大きな海老をたくさん出してくれた。

翌日は娘や息子の学校を訪ねた。娘の学校ではちょっと校内を見せてくれといったら、校長先生が出てきて話すうちに、当時の先生の名前を聞かれた。娘は先生の名前を覚えており、それを告げると向こうもびっくり、その先生が今居られるとのこと。すでにリタイヤされておられるとのことですが、たまたま今日は手伝いにこられているとのこと。感激の懐かしいご対面が

ありました。

スラタニの町は当時とは比べ物にならないほど発展し、町には4車線のバイパスができ、我々が最初に造った道路も、ほとんど全線4車線の高級舗装道路となっていた。市内の朝夕は当時では考えられなかった交通渋滞が発生し、最初に住んでいた街中の家を訪ねるときには苦勞しました。

スラタニの後カンチャナブリ市を訪問した。案内は当時の所長のVicha夫妻で、彼はリタイヤしているが、最後は道路局の次長まで昇進した。カンチャナブリの事務所は当時は仮の事務所でしたが、現在は大きな敷地を持つ新しい立派な事務所でした。ここでも所長以下多くの人たちが歓迎会を開いてくれました。当時はゴルフ場はなかったのですが、現在では周辺に10のゴルフ場があるとか。ホテルも立派なりゾートホテルがあり、週末にはバンコックなどから多くの人たちが訪れるとのことである。

バンコックではMr. Saponが中心で歓迎会をしてくれた。彼は私が最初にタイの調査団に参加したときタイ側のエンジニアとして我々を世話してくれた人で、スラタニセンターの次長として一緒に仕事をした。現在道路局の次長に昇進し次の局長の候補者である。その席には最初のスラタニの所長夫妻、機械のチーフ、カンチャナブリの機械のチーフ、現在道路局の機械のチーフなどと会うことができ懐かしいひと時を持つことが出来た。

数年前から比べてバンコックは大きく変わった。まず目に付くのは大きなホテルが林立していることである。中には80階のランドマークも見受けられる。交通機関も大きく変わった。高速道路網がかなり整備され、空港方面の北方向に2本の高速道路が伸び空港が非常に近くなった。

大量輸送機関としてはスカイトレーンがある。道路上のモノレールで現在2路線が開通している。地下鉄はホームにも扉のある立派なもので、7月時点では仮開通とのことでしたが、8月12日の王妃誕生日から正式開通となった。これらの大量機関は市の中心部のみであるが大分交通渋滞の緩和に役立っているものと考えられる。しかしまだまだバンコックの交通渋滞はすさまじいものである。

今回の旅は、タイの発展を目の当たりにした楽しい旅でしたが、暖かく迎えてくれた多くのタイの友人達に感謝したい。（平成16年8月18日記）

——わたなべ かずお 前社団法人日本建設機械化協会副会長・株式会社拓和顧問——